



OSAKA HOUSING DESIGN AWARDS Since 1987

大阪市ハウジングデザイン賞受賞作品

LIB MARK minamihorie [改造 (リノベーション)・賃貸]



2003年に竣工した鉄筋コンクリート造8階建ワンルームマンションを2022年から2戸を1室にしてファミリー向けタイプに改修している。

建築当初は本物件を含む周辺は事業所が多く単身需要が多かったが、近年は事業所が転出し、カップル・子育てファミリーの需要が急増しており、地域ニーズに合致した改修となっている。

既存の入居者がいるため、両隣が空室になるタイミングでの改修となるが、棟内転居の提案により、改修居室を確保する他、エントランス改修では、工事の内容の丁寧な説明により、居住者への理解をとりつけて、住民の対話が生まれる空間の創出に努めている。

2戸1の改修室は、回遊できる動線を意識し、可動式間仕切りにより自由な型式が創出できる。床に檻の無垢材を使用し、幼児にも安心な仕様としている他、壁面は紙クロスを導入し、汚損場所を低コストで補修できる工夫も導入しており、将来メンテナンスにまで考慮したストック再生の点が評価できる。

(選考有識者会議メンバー・難波 里美)

所在地：西区南堀江4丁目
事業者：富士建設株式会社
設計者：有限会社デコラティブモードナンバースリー (graf)
施工者：富士建設株式会社
構造・規模：鉄筋コンクリート造、地上8階、31戸
敷地面積：269.97m²
建築面積：185.26m²
延べ床面積：1,384.06m²

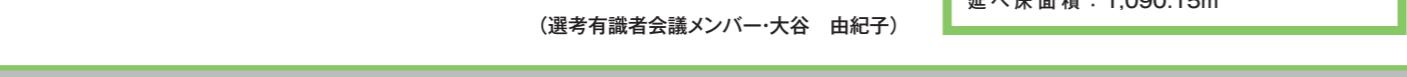
特別賞 しきの音 伶人 [新築・コーポラティブ]



上町台地西側に位置する伶人町は、かつて四天王寺舞楽の楽師たちが集住していた地区である。「しきの音 伶人」という名はその歴史に由来する。この場所に土地をもつオーナーの思いをもとに、コーポラティブ住宅が立案されたのは2016年、新聞の折り込みで居住者を募り、コロナ禍で頓挫し、建設費高騰から見直しを迫られ、9年の歳月が流れた。数々の難題を超えて成し遂げたことに脱帽するが、設計者は「すまいいは買うものという意識がハードル」という。都心の集合住宅は、投機対象や商品としての価値ばかりが注目されるなか、地域コミュニティを大切に、自分たちですまいをつくり、豊かな暮らしを紡ぐことの重要性を改めて思う。これほどに労力をかけたすまいはレアかもしれない。しかし、コーポラティブ住宅の草分け・都住創の遺伝子を受け継ぎ、愛情をもって丁寧にすまいをつくることの意義は大きい。だからこそ難題を乗り越えることができたのだろう。そこに共感が寄せられた。

(選考有識者会議メンバー・大谷 由紀子)

所在地：天王寺区伶人町
事業者：夕陽ヶ丘伶人町
コーポラティブハウス建設組合
設計者：アトリエ・ホロニカ 一級建築士事務所
株式会社プラスプラン
ユーブランプロジェクト(構造)
有限会社 アスク設計(衛生設備)
株式会社 ST設備計画(電気設備)
施工者：株式会社 日生建設
構造・規模：鉄筋コンクリート造、地上10階、9戸
敷地面積：304.52m²
建築面積：174.51m²
延べ床面積：1,090.15m²



特別賞 リブウッド大阪城 [新築・賃貸]



大阪城の北、寝屋川沿いに建つ8階建ての集合住宅である。1階から3階を鉄骨造、4階から8階を木造とした混構造で、木造の採用は中高層住宅における先進的な取り組みとして注目される。事業主の建設会社は、この地に明治35年に木材店として創業した自社の歴史から、自社ビルの建て替えに際し、自社のオフィスが入る木造中高層賃貸住宅を構想したという。木造の中高層住宅という挑戦的な試みは、事業主の熱い想いに賛同する地元関係者や銀行の後押しによって実現された。木構造をそのまま現した居心地の良い木質の室内空間は、窓の外に大きく見える大阪城天守閣とともに、この住宅の大きな魅力となっている。

国は、木材の需要を喚起し、森林の循環を促すとともに、都市での長期に渡る炭素の固定を目指して、中大規模建築物の木造化・木質化を推進している。その先には、都市を森のような環境にかえるという未来像が描かれる。そうした社会的潮流にあって本住宅は、木造中高層住宅の可能性を示すものとして評価できる。続く木造中高層住宅の登場を期待したい。

(選考有識者会議メンバー・中嶋 節子)

所在地：都島区片町1丁目
事業者：オリオン建設株式会社
設計者：有限会社ビルディング
ランドスケープ
施工者：オリオン建設株式会社・株式会社
新宅工務店特定建設工事共同体
構造・規模：木造一部鉄骨造、地上8階、25戸
敷地面積：648.38m²
建築面積：405.03m²
延べ床面積：2,220.89m²

特別賞 スペースブロック上新庄 [維持管理・賃貸]



大阪の中心にほど近い下町の密集エリアに、この小さな集合住宅は、その特異な形態にも関わらず、埋もれるようにひっそりと存在している。竣工後27年の時間を経て推薦してきた。建物は、2.4mのモジュールの立体を組み合わせた構成で出来ている。RC壁式構造の一種であるが、壁が上下に通らない空間が構成できるという特性を活かして、外部との関係や住戸内部の立体的な空間の組み合わせによって、16.8m²~34.8m²の小規模な22の住戸が、18タイプの個性的なワンルーム住戸として提供されている。設計者自身が言うように、平面と断面の組み合わせは多様で、いわゆる図面だけから空間を想像するのが難しいほど、それぞれ広がりを感じさせる豊かな空間が実現・展開されている。その結果、この建物に愛着を持ち日常的に献身的な手入れ・維持管理を行うオーナーと、それぞれの居住空間を気に入り住みこなしている住民とに介在すると伺い知れるコミュニティには賃貸住宅としての豊かさを感じさせるものがあり、そういった建築への再評価も期待して、ハウジングデザイン賞特別賞にふさわしいと評価された。

(選考有識者会議メンバー・江川 直樹)

所在地：東淀川区豊新3丁目
事業者：有限会社桂
管理会社：有限会社桂
改修時アドバイザー：株式会社シーラカンスアンド
アソシエイツ
構造・規模：壁式鉄筋コンクリート造、地上5階、22戸
敷地面積：364.94m²
建築面積：218.07m²
延べ床面積：779.09m²